

市民意見聴取結果の反映状況

資料 5

■ 次代を担う人材を心豊かに育むまち（子育て・教育）

・結婚・出産・子育ての各段階におけるきめ細やかな支援により、安心して子どもを産み育て、子育ての喜びを感じながら、親と子が共に成長することができる子育て支援を目指します。

・地域の豊かな自然や文化と人々の温かさを活かし、特色ある学校運営を行うことで、子どもたちが生きいきと充実した学校生活を主体的に送るとともに、夢や希望を持って成長できる次代を担う持続可能な教育環境を目指します。また、家庭教育や放課後の居場所を充実させ、全ての子どもが安心して、心身ともに健やかに成長できる環境を目指します。

・歴史・文化資源の活用による生涯学習や多文化理解、世代を超えた交流の推進により、市民の郷土愛と誇りを醸成し、誰もが自分らしく、地域にいつまでも住み続けたいと感じるような、地域を愛し楽しむ生活を実現します。

政策 1 子育て		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■ 移住促進条件 ・他市と比較して優れた教育制度が整備されていることが移住の決め手となる。 ・子育て中の母親が活躍できる職場環境の整備、子どもを預けられる施設、また子どもが病気の際の緊急対応が可能な仕組みが必要である。 ・都市部の受験対策教育が不足している点を自然豊かな地域特性を生かした移住施策として打ち出すことが有効である。	子育てWS	（政策 1 施策 1）子育て支援 ⇒ワークライフバランスに配慮した就労環境の整備の取組を記述した ⇒地域や関係団体と連携しながら、子どもたちが過ごしやすい居場所づくりを提供する取組を記述した ⇒妊娠・出産・子育てに関する経済的支援、広報の強化、子育て施設の充実に係る取組を記述した
■ 保育環境 ・保育園において保育士が不足している状況が見受けられる。	子育てWS	
■ 子育て支援施設 ・授乳室が完備されている施設が少ない。 ・子育て中の親が一人で子育てを行う際の居場所が不足している。特に平日夜間に子連れで利用可能な施設が少ない。	子育てWS	（政策 2 施策 3）ふるさとの魅力を学ぶ機会の創出 ⇒伊豆っ子宣言の啓発活動を継続し、ふるさとへの誇りと愛着を根付かせる取組を記述した ⇒ふるさと学級の充実を図り、ふるさとの魅力を発信できる伊豆っ子を増やす取組を記述した ⇒伊豆総合高校との連携、中高生向けの学習環境の整備、小中学生向けの図書館見学や図書館体験活動、地域学習の実施など、学生の学ぶ機会を創出する取組を記述した
■ 医療体制 ・子どもが急に体調を崩した際に受診可能な医療体制の整備が求められる。	子育てWS	
■ 安全対策 ・狭い道路で軽トラックなどの車両が速度を出している状況があり、歩行時の安全面に不安がある。 ・狭い道路を自転車で移動する中高生の安全が懸念され、親が送迎するケースが増えている。	子育てWS	（政策 9 施策 4）地域インフラの持続的な維持管理 ⇒安全な歩行空間を確保する取組を記述した
■ 情報発信・取得 ・地域コミュニティに属していないと必要な情報を得ることが難しい状況がある。 ・個人主催のイベントが市の広報媒体を活用できないため、情報が届かない場合がある。	子育てWS	
■ 重点的に取り組むべき施策等 1. 妊娠・出産・子育てに関する経済的支援 2. 移住・定住に向けた支援 3. 子育てのための住環境の整備	アンケート	

市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
政策２ 教育		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■ 子育て世代（子育て世代が移住するための条件） ・他市と比較して優れた教育制度が整備されていることが望まれる。 ・都市部のような受験対策教育体制が不足しているが、自然豊かな環境を活かした移住施策を発信することが有効である。 ・現在実施されている良好な環境整備や子育て世代向け施策・取り組みについて、継続的な実施が重要である。	子育てWS	（政策２ 施策１）多様化する社会に対応する教育環境づくり ⇒様々な状況に置かれた生徒が学びやすい形で学習が進められる体制の整備を記述した ⇒実学・探求学習の取組を記述した ⇒ワンストップ窓口の取組を記述した ⇒ICT教育の取組を記述した （政策２ 施策２）伊豆市が誇る文化・芸術資源の活用 ⇒文化資源や芸術に触れ合う機会の創出を記述した （政策２ 施策３）ふるさとの魅力を学ぶ機会の創出 ⇒ふるさとへの誇りと愛着に関する取組を記述した ⇒ふるさと学級の充実を記述した ⇒学生の学ぶ機会を創出を記述した
■ 教育内容 ・伊豆市ならではの教育の実施	職員WS	
■ 教育環境 ・児童数の減少に伴い、小学校での同級生の人数が少なく、スクールカーストの発生が懸念される。	子育てWS	
■ 重点的に取り組むべき施策等 1.生きる力を育むための教育環境づくり 2.通学環境の整備 3.ICT技術を活用した学びの環境の整備	アンケート	

■安全・安心で心地よく暮らせるまち（安全・安心）

- ・福祉・医療の充実により、誰もが住み慣れた地域で安心して快適に生活できるまちづくりを目指します。
- ・平常時と非常時の垣根を減らすフェーズフリーなまちづくりを推進し、誰一人取り残さない防災力が高く、安全なまちを目指します。
- ・福祉・防災・環境における自助（自分自身でできること）、共助・互助（地域との支え合い）、公助（公的支援）のバランスが取れた生活環境を創出することで、誰もが安全・安心に暮らし、生活の質（QOL）を高められるまちづくりを目指します。

政策3 健康医療・福祉		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■地域福祉（課題） <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経て、昔に比べて地域住民同士の繋がりが希薄になりつつある。 ・地域における様々な担い手不足が加速し、住民同士の交流機会や課題解決する場が少なくなっている。 ・少子高齢化や核家族の進行、コロナの影響などから地域の関係が希薄化しており、地域力が低下や担い手不足となっている。 ・少子高齢化を身近に感じるような現状となり、地域での福祉活動の幅が少しずつ狭くなってきたように思える。 ・顔を合わせる機会の減少、顔を合わせたいと思う人の減少。 ・広報紙・ＨＰ・ＳＮＳ等で地域福祉関係情報を発信しても本当に情報が欲しい人へ届かない（見ない）など周知が課題 	団体意見	（政策3 施策1）個人の行動と健康状態の改善 ⇒受診しやすい健診（検診）体制構築の取組を記述した ⇒げんきプロジェクトを基盤とした健康づくりの取組を記述した （政策3 施策3）社会環境の質の向上 ⇒地域の居場所づくりの取組を記述した ⇒移動支援・生活支援の取組を記述した ⇒かかりつけ医を持つ啓発の取組を記述した
■地域福祉（対応策） <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の意識改革 ・地域住民同士の交流を持つための機会を作る ・課題に気づき、当事者意識を持つための機会づくり ・地域住民が自分たち地域のことを知り、お互いに助け合う取り組み ・地域住民同士が顔の見える関係を継続していくこと ・高齢者や障がい者、子育て世帯など、さまざまな立場の人々が互いに支え合う「共生型」の福祉サービス 	団体意見	
■高齢者福祉 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者世帯や一人暮らしが増えているため、毎日の生活に必要な受診や買い物等の移動支援。 ・高齢者が地域で暮らしやすい移動、買い物、居場所等の取組みが必要だと思う。 ・早めの訓練、準備 ・家族や近隣との協力体制がとれるような地域づくり ・高齢者世帯や単身世帯の増加に伴い、人と人との繋がりがや信頼関係など地域コミュニティの構築 	団体意見	
■障がい者支援 <ul style="list-style-type: none"> ・安心して地域で暮らすための（在宅可能な）環境（資源不足）整備 ・世帯での支援という視点を持つことが大事。事業所などの居場所作りを強化 ・当事者だけでなく、家族や支援者に対する相談支援や地域との関わり強化 	団体意見	

■ 若手職員の意見 ・駅までのタクシー利用補助を導入することで、移動の利便性を向上させるべき。 ・バスの利用を無料化することで、移動の制約を減らし、地域を活性化させるべき。	職員WS	
■ 重点的に取り組むべき施策等 1.保健・医療・福祉が連携した地域医療体制 2.高齢の方や障がいのある方への福祉サービス 3.外出のための支援体制	アンケート	
政策 4 防災		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■ 重点的に取り組むべき施策等 1.災害に備えた対策・避難所の整備 2.防犯カメラの設置など犯罪防止や交通安全に向けた施設整備の取組 3.地域での防災・防犯の体制づくり	アンケート	（政策 4 施策 1）災害などリスクに強いまちづくり ⇒防災関連施設を含むハード整備を充実の取組を記述した （政策 4 施策 2）災害死者ゼロを目指す地域力・防災力の強化 ⇒地域防災の取組を記述した
政策 5 防犯		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■ 重点的に取り組むべき施策等 1.災害に備えた対策・避難所の整備 2.防犯カメラの設置など犯罪防止や交通安全に向けた施設整備の取組 3.地域での防災・防犯の体制づくり	アンケート	（政策 4 施策 1）災害などリスクに強いまちづくり ⇒防災関連施設を含むハード整備を充実の取組を記述した （政策 4 施策 2）災害死者ゼロを目指す地域力・防災力の強化 ⇒地域防災の取組を記述した （政策 5 施策 1）地域で守る安全な暮らし ⇒警察や福祉センターとの連携推進の取組を記述した

■人が集い活力あふれるまち（地域経済）

・歴史・文化・景観を活かし、国際的な観光文化環境都市としての魅力を高めることで、多くの訪問者を引き寄せ、地域の活性化を図ります。また、事業者支援や企業誘致を通じて働きやすい環境の整備、農林業の担い手の確保による次世代への技術・伝統継承により地域経済の基盤を強固なものにするともに、特産品の生産振興も促進し、地域の魅力を向上させ、選ばれるまちを目指します。

政策6 観光		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■観光（課題） ・コロナが明け、観光客が増加しているが、伊豆市内全体では格差がある ・インバウンド客が増加しているが、言語、文化思想の相違があり対応が遅れている ・伊豆市は面積が広く、温泉、観光資源が分散しており、面での誘致対策が必要	団体意見	（政策6 施策1）魅力の向上と持続可能な観光地域づくりの推進 ⇒地域の魅力発信を行う個人や法人の支援体制を強化する取組を記述した ⇒市民と連携して地域資源を再認識する機会を創出するとともに、地域資源の有効活用、魅力発信を進める取組を記述した ⇒美しい伊豆創造センターなど、各自治体や団体等と連携した広域的な観光連携の取組を記述した
■観光（対応策） ・小規模事業者のみならず、地域一体となった街づくり、観光客の誘致 ・国がインバウンドの目標を2030年に6,000万人としており、今後もインバウンド客の増加が見込まれることから、受入れ対応策を強化する	団体意見	
■重点的に取り組むべき施策等 1.地元で就職するための取組 2.伊豆市ならではの魅力的な資源の活用 3.企業誘致・留置の取組	アンケート	

政策 7 地域産業		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■ 地域産業（課題） ・商業、サービス業が約半数を占め、産業力の強化が必要 ・少子高齢化、人口減少、過疎化が進行し、地域経済の衰退が著しい	団体意見	（政策 7 施策 1）企業誘致や雇用創出に向けた取組の強化 ⇒サテライトオフィス誘致の取組を記述した ⇒創業者支援の取組を記述した ⇒起業・創業支援の取組を記述した ⇒中心市街地の活性化の取組を記述した （政策 7 施策 2）農林水産資源の多面的な活用 ⇒遊休農地対策の取組を記述した ⇒農業法人の誘致や新規営農者の確保の取組を記述した （政策 7 施策 3）日本一の「わさびの郷」の創出と未来への継承 ⇒新規営農者の確保に関する取組を記述した ⇒苗の安定供給による生産性向上の取組を記述した ⇒伊豆わさびセンターの利用率向上の取組を記述した ⇒水わさび・畑わさび生産の支援に係る取組を記述した
■ 地域産業（対応策） ・デジタル支援の強化 ・事業継承問題への対応（第3者継承を含む新たな継承形態の支援強化） ・自治体、専門家、金融機関との連携 ・商工会、自治体が連携したBCP策定支援の強化 ・地域ぐるみでの人材確保策として自治体との連携強化	団体意見	
■ 地域産業（行政への期待） ・新規創業者の積極的な誘致と広報活動 ・過疎地域における少子高齢化に伴う労働力の減少に対応した施策 ・移住者の増加に向けた取組の強化 ・補助金に頼らない施策、イベントの拡大 ・地域おこし協力隊や各種団体との連携強化	団体意見	
■ 重点的に取り組むべき施策等 1.地元で就職するための取組 2.伊豆市ならではの魅力的な資源の活用 3.企業誘致・留置の取組	アンケート	
■ 重点的に取り組むべき施策等 1.担い手育成への支援 2.地産地消ができる仕組みづくり 3.産品の高品質化・ブランド化の取組	アンケート	
■ 若手職員の意見 ・起業支援の施策を充実させる。 ・遊休農地対策を実施する。	職員WS	

■人と自然が調和した魅力あふれるまち（生活環境）

・④「ネットワーク型コンパクトタウン」によるまちづくりを推進し、拠点集約型の都市構造への転換を進めながらも、各地区の地域特性を活かした拠点づくりと各種生活サービス・交通サービスを充足し、市民が生きいきと暮らせる豊かな生活環境を目指します。また、市民や企業などが環境問題に対する正しい知識を身につけ、カーボンニュートラルの取組や地球環境の保全に主体的に取り組むことを目指します。

政策8 地域力		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■ 移住促進条件 ・移住を検討する際、希望する住居が確保できるかが重要である。 ・移住前に地域住民との交流が可能であり、地域とのつながりを感じられる環境が望ましい。	子育てWS	（政策8 施策1）まちづくりの多様な担い手の育成 ⇒市民による様々なまちづくり活動を支援する取組を記述した ⇒将来の移住・定住につながる伊豆市ファンを増やす取組を記述した （政策8 施策3）空き家を活用した住環境の整備 ⇒空き家の流通促進に関する取組を記述した （政策6 施策1）魅力の向上と持続可能な観光地域づくりの推進 ⇒地域の魅力発信を行う個人や法人の支援体制を強化する取組を記述した ⇒市民と連携して地域資源を再認識する機会を創出するとともに、地域資源の有効活用、魅力発信を進める取組を記述した （政策9 施策5）公共交通の利用促進 ⇒住民の移動手段の確保に向けた取組を記述した
■ 未来塾意見 ・伊豆市の魅力を市外の人にも知ってもらい、伊豆市のファンを増やしたい	未来塾意見	
■ 重点的に取り組むべき施策等 1.地域の実情に応じた効率的な交通手段の確保 2.公共交通の利用促進に対する支援 3.特色ある地域活動の支援・促進	アンケート	

政策 9 地域インフラ		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■ 重点的に取り組むべき施策等 1.各地区の特色ある拠点づくり 2.空き家の活用 3.周辺の交通渋滞の緩和	アンケート	（政策 9 施策 1）魅力あふれる拠点の創造 ⇒魅力あふれる拠点の整備に関する取組みを記述した ⇒地域住民と連携しながら、地域の活性化と賑わいあるまちづくりを推進する取組を記述した
■ 若手職員の意見 ・混雑の少ない道路の整備が必要である。 ・空き家や空き店舗の解体を進めるべきである。	職員WS	（政策 9 施策 4）地域インフラの持続的な維持管理 ⇒安全な歩行空間を確保する取組を記述した ⇒道路・橋梁・トンネル・河川・漁港の老朽化の取組を記述した （政策 8 施策 3）空き家を活用した住環境の整備 ⇒空き家の流通促進の取組を記述した
政策 1 0 環境		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■ 安全対策 ・自然災害や鳥獣被害への対策が求められる。	子育てWS	（政策 1 0 施策 1）里山の保全と有害鳥獣対策 ⇒鳥獣による農林作物食害対策の取組を記述した

■将来にわたって持続可能なまち（行財政運営）

- ・②本格的な人口減少社会の到来や社会情勢の変化により、市内GDPや税収が大きく落ち込む可能性がある中でも将来にわたって持続可能な行財政運営を推し進めるためには、長期的な視野に立った準備を周到に進めていく必要があります。
- ・②施策の展開と行政改革の整合を図り着実な行政運営の推進を図るため、公共施設などの行政の経営資源を無駄なく最適配分しながら、民間活力の活用など引き続き事業の「選択と集中」を行う仕組みづくりやICT活用による効率化、コスト削減手法の導入などにより持続可能な行財政運営を確立することを目指します。

政策 1 1 行政経営		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■若手職員の意見 ・公設民営を増やす。	職員WS	（政策 1 1 施策 2）財源の確保 ⇒歳入確保の取組として、ふるさと納税の確保に向けた取組を記述した （政策 1 1 施策 4）行政DXによる生産性の向上 ⇒デジタル技術を活用した行政事務の効率化施策として、自治体システムの標準化・共通化の推進やノーコードツール、生成AI等を活用した業務の効率化等の取組を記述した （政策 1 1 施策 5）公共施設の適正化 ⇒公共施設の適正化や運営手法の改善に向けた取組として、施設カルテの整備や公共施設マネジメント、公共施設の跡地活用の民間連携の取組を記述した （政策 8 施策 2）新たな交流人口の創出 ⇒「伊豆市プロモーションサポーター」などによるシティプロモーション（交流の場づくりを含む）をより一層推進する取組を記述した
■重点的に取り組むべき施策等（歳入） 1.企業誘致・留置のための P R 2.移住・定住の促進につながる P R 3.ふるさと納税の取組	アンケート	
■重点的に取り組むべき施策等（歳出） 1.公共施設の適正化の取組 2.既存事業の見直し 3.デジタル技術を活用した行政事務の効率化	アンケート	

政策 1 2 参画・協働		
市民の皆さんからの主な意見		基本計画への反映（主なもの）
■移住・定住（課題） ・地域のキーパーソンとなり盛り上げてくれる移住者と地域との接点となっている ・田園風景や里山の景観に憧れ、田舎暮らしを希望して移住検討する人が多い。現在の風景・景観を損なわずに移住者を増やすには、既存の住宅（空き家）の発掘・空き家バンクのさらなる充実が効果的ではないかと感じる	団体意見	（政策 1 2 施策 1）開かれた地域づくりの推進 ⇒地域づくり協議会設立支援の取組を記述した ⇒多様性を尊重する共生社会の実現に向け、地域全体での意識醸成の取組を記述した （政策 6 施策 1）魅力の向上と持続可能な観光地域づくりの推進 ⇒地域の魅力発信を行う個人や法人の支援体制を強化する取組を記述した ⇒市民と連携して地域資源を再認識する機会を創出するとともに、地域資源の有効活用、魅力発信を進める取組を記述した （政策 8 施策 1）まちづくりの多様な担い手の育成 ⇒人を育て、人を通じて伊豆市の魅力を発信することで、将来の移住・定住につながる伊豆市ファンを増やす取組を記述した （政策 8 施策 2）新たな交流人口の創出 ⇒「伊豆市プロモーションサポーター」などによるシティプロモーション（交流の場づくりを含む）をより一層推進する取組を記述した （政策 8 施策 3）空き家を活用した住環境の整備 ⇒所有者及び利用者の双方にメリットのある空き家の活用方法を提案し、空き家の流通を促進する取組を記述した
■移住・定住（市の魅力） ・景色や環境がよいこと ・アウトドア・レジャーなどの趣味が楽しめること ・家庭菜園やガーデニングができること ・首都圏からのアクセスの良さ ・新中学校が開校すること、教育環境の良さ、通える高校の選択肢の多さ ・移住相談から定住後まで相談できる施設(9izu)があること ・いづらし交流会というコミュニティに参加できたこと ・移住前に移住体験ツアーで市の魅力を体感できたこと	団体意見	
■移住・定住（障壁） ・条件に合う物件が見つからない、希望するこども園の学区に物件がなかった ・車(免許)がない ・医療体制への不安 ・ひとり親支援制度がなくなった ・賃貸の審査が通らなかった	団体意見	
■重点的に取り組むべき施策等 1.持続可能な観光地域づくりの戦略 2.テレワークの活用や空き家・空き別荘を活用した二拠点居住などの取組 3.地域づくりのための"ヒト・モノ・コト"の発掘	アンケート	
■若手職員の意見 ・地域住民や移住者が交流できる場の提供が求められている。 ・交流を希望する人同士が気軽に出会える場を設ける必要がある。	職員WS	